

日田市中心市街地地区

(大分県日田市)

計 画 期 間 平成 17 年度 ~ 21 年度

面 積 305.6ha

交付対象事業費 1,728.4 百万円

市人口 72,814 人 (地区内人口 18,472 人)

ポイント 『街の顔』である中心市街地の賑わいの再生と、歴史と文化のある周辺地区との回遊性の促進

地区概要 道路、公園、道路の美装化、(仮称)咸宜園教育研究センター整備や国・県等の関連事業と一体的な整備を行い、歴史的町並みの景観形成と都市空間の魅力の強化を図る。

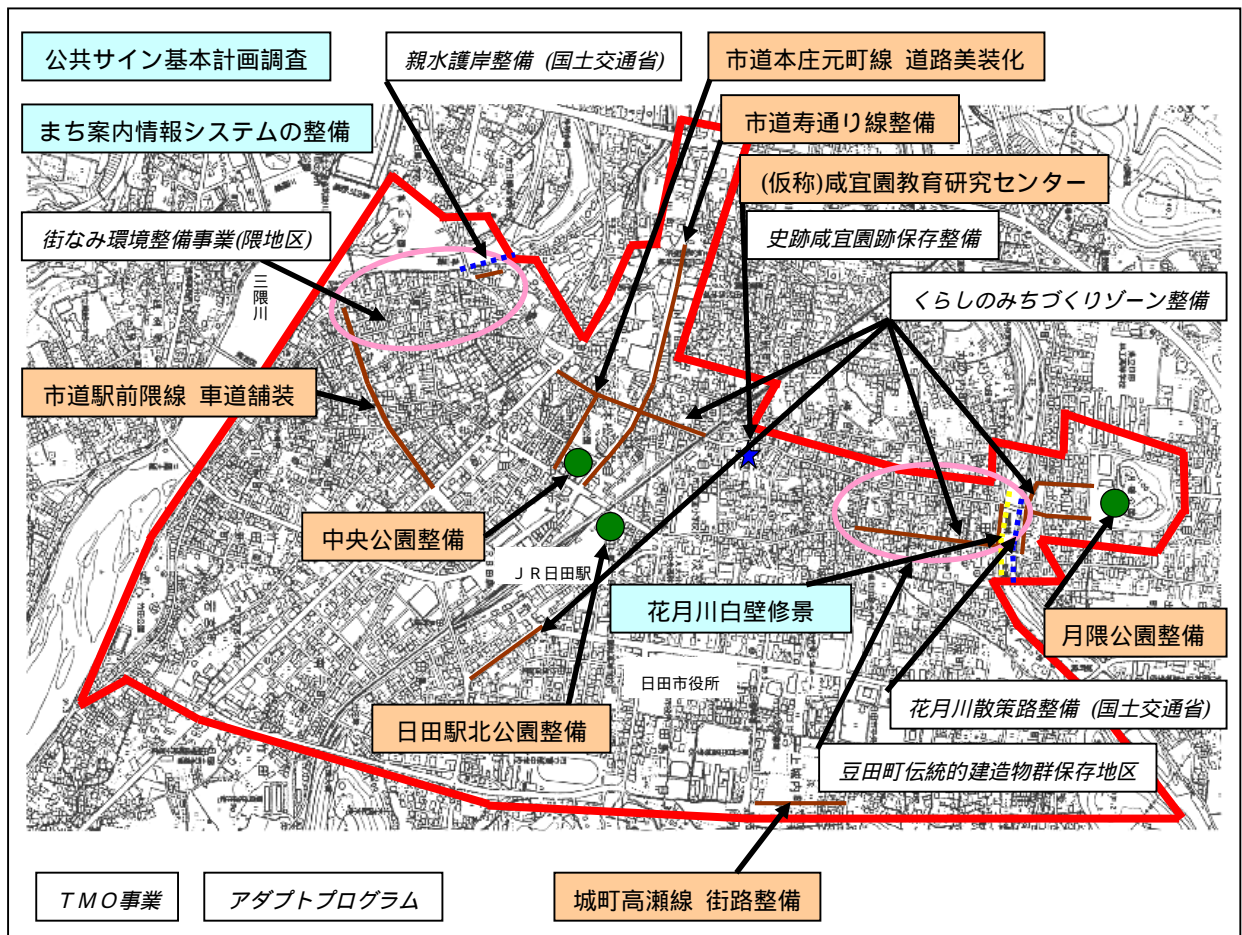
目 標 都市空間の魅力を強化するため、歴史的町並みの形成と活動交流拠点の整備を行い、市民の文化や地域活動と観光交流を活発にして、中心市街地の賑わいを創出する。

指 標 (仮称)咸宜園教育研究センターの整備、道路、公園、案内板、道路の美装化、関連事業の整備により歴史的町並みが残る豆田・隈地区と中心市街地との回遊性を促進し活性化を図る。

来街者数の増加	490 千人/年 (H15)	539 千人/年 (H21)
空き店舗率	11 % (H15)	8 % (H21)
歩行者通行量	2,000 人/9h (H15)	2,200 人/9h (H21)

事業内容 基幹事業 (1,521 百万円) 道路 (幅員 5.0m ~ 16.0m、延長 1,606m) 公園 (3カ所 8,800 m²) 案内板設置 (16カ所) 道路の美装化 (幅員 5.0m ~ 8.0m、延長 400m)

提案事業 (207 百万円) 公共サイン基本計画調査、(仮称)咸宜園教育研究センター、花月川白壁修景事業、まち案内情報システム



地区の現況と課題

中心市街地は、交通・商業・文化機能が集積した市民生活の拠点地区である。一帯は、土地区画整理事業等により街並みが整備され、賑わいを見せてきたが、近年は居住人口の減少や空き店舗の増加等で空洞化が進んでいる。中心市街地周辺の豆田地区は、歴史的な町並みを活かしたまちづくりが行われており、中心市街地との回遊性の強化が課題である。

基幹事業の特徴

道路

都市計画道路整備及び車道と歩道の段差解消整備。

公園

関連事業『日田市民文化会館バトリア日田』と中央公園・日田駅北公園を一体的に整備することにより、魅力ある都市空間整備を行う。

案内板

サイン整備計画に基づき、統一した歩行者・自動車系サイン(案内板)整備を行う。

道路の美化化

中心市街地地区と豆田・隈地区を結ぶ主要軸を統一的な舗装で、整備し、歩行者等の回遊性を促す。

提案事業の特徴

咸宜園教育研究センター

中心市街地地区と豆田地区の中間に位置する「咸宜園」は、廣瀬淡窓により文化14年(1817)に開かれた。近世史上、日本最大の私塾として全国各地より約4,800人が入門した。今後は、調査や史料などを参考としてできる限り往時の姿に復元し、教育普及施設としての機能や観光客への情報発信等、関連事業と一体的な整備を行う。

公共サイン基本計画調査

まちなかの回遊性の促進を行うため、デザインの統一等観光客に判りやすい(案内板)計画を行う。

花月川白壁修景事業

豆田町に隣接し流れる花月川沿いにガードレールの代替として設置している漆喰塗のバラベットの、石張り等の修景を施すことにより風情を醸し出し、豆田地区への誘導を促進する。

計画策定プロセス

「街の顔」である中心市街地が、高齢化の進行並びに少子化による居住人口の減少、郊外型大型店舗の進出、空き店舗の増加により本来の機能が失いつつあるなかで、本市の独自性や創意工夫を生かした『日田市中心市街地活性化基本計画書』を平成12年3月に、有識者・商工団体・街づくり団体・各種機関の策定委員で策定した。



観光客で賑わう豆田地区

【重要伝統的建造物群保存地区】



【日田川開き観光祭】



咸宜園教育研究センター



中央公園（市民文化会館と隣接）



花月川白壁修景整備